埋文やまがた

2024 年 3 月 31 日
web 版第 14 号
（第 70 号）

新庄城二の丸跡発掘調査

3 面の遺構面の調査で大量の遺物が出土しました。その数約 390 箱！
そのほとんどが、廃棄された瓦で鯱（しゃち）瓦や鬼瓦もみられます。

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター
YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH
〒 999-3246　山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地　TEL 023-672-5301　FAX 023-672-5586
ホームページ：https://yamagatamaibun.or.jp
メールアドレス：yac@yamagatamaibun.or.jp

新庄城二の丸跡

－戊辰戦争で焼失した米蔵－　新　庄　市

新庄城は、元和８年（1622 年）に新庄藩の初代藩主、戸沢政盛により築城され、寛永２年（1625 年）頃に完成したと伝えられます。二代藩主の正誠は二の丸の拡張・整備を行い米蔵が建てられました。新庄は江戸時代に城下町として栄えましたが、戊辰戦争で慶応４年（1868 年）に城は焼失しました。明治以降、二の丸跡は学校敷地となり、現在は公園となっています。新庄市公立保育所整備事業により 1,800㎡について発掘調査を行いました。

調査では３面の遺構面を確認しました。第１面は戊辰戦争で火災となった後に整地された明治以降の面で、新庄北高校の校舎基礎や米蔵に由来する炭化米を多く含む層が確認されました。その下の第２面は、二の丸内の米蔵があった幕末頃の面です。遺構は焼土遺構、溝跡、建物の礎石や柱穴、土坑などがあります。焼土遺構は戊辰戦争の火災の跡で、覆土に炭化材や炭化米を含みます。また、瓦が大量に廃棄された瓦廃棄地点が３ケ所以上、北側の１区で建物の礎石や柱穴群が検出されました。大型の礎石は直径が 50cm 以上で、１区に４基確認され、そのうち３基は直線状に配されます。火災による被熱の痕が残ります。失われた礎石もあり建物規模は明確ではありませんが、米蔵の礎石に該当すると考えられます。

その下の第３面では、二の丸が整備される前の遺構と、その後整地が行われた状況が確認されました。調査区西側では落ち込む地形が確認され、大量の瓦と土砂を入れ整地されていました。３区東側では、南北に延びる溝状の落ち込みや土坑、柱穴などが確認されました。これらの遺構は二代藩主の二の丸整備に伴い埋められ整地されたと推測されます。

江戸時代の出土遺物は、瓦が最も多く出土しました。黒色の丸瓦と平瓦が主で、鯱瓦・鬼瓦も出土しました。陶磁器は、九州の伊万里焼、波佐見焼、唐津焼が中心で、瀬戸・美濃産の陶磁器も少量伴います。その他、金属製品として、釘、鉄砲の鉛玉、寛永通宝や一分金などの貨幣、石製品として砥石や硯などが出土しました。

火災による焼けた痕が残る大型の礎石

江戸時代の礎石群（中央）と焼土遺構

戸沢家の家紋「丸に九曜」が入る江戸時代の瓦

鶴子中原遺跡（つるこなかはら）

―県内では数少ない約 8,000 年前の縄文集落―

尾花沢市

鶴子中原遺跡は、尾花沢市街地から南東約８㎞の鶴子地区にあり、丹生川左岸の河岸段丘上に立地します。今回の調査は、農地整備事業の用排水路工事に伴い、昨年度調査された原の内Ａ遺跡（縄文時代中期：約 5,000 年前）の北側の隣接地になります。

今回の調査では、貯蔵穴やゴミ捨て穴と考えられる直径１ｍ前後の土坑が 10 基以上、柱穴などと考えられる小ピットが多数確認されました。また、樹木が風などで横転した跡の直径や深さが約 1.5 ｍ程の大型の風倒木痕も６基以上発見されました。特に土坑や風倒木痕からは、当時使用されていた土器や石器が一定量まとまって出土しました。

これら土器は、貝殻文様を付けたものが大半で、貝殻の腹縁を土器に押し当て鋸歯状の文様を施す「貝殻沈線文系土器」（縄文時代早期中葉。約 8,000 年前）、腹縁を押し引いた「貝殻条痕文系土器」（同早期後葉。約 7,000 年前）があります。これらは、県内では数少ない縄文時代でも古相のもので、県内に縄文遺跡は約 2,300 ヶ所が知られていますが、この時期の遺跡はその約４％しかありません。

石器では、石鏃（矢じり）や石ベラ（加工用のナイフ）、削器、掻器、磨製石斧が出土し、特に堅果類の粉砕具である凹石が 20 点以上出土しました。

他に、遺跡の包含層や地山（基盤層）では、縄文時代早期前葉（約１万年前）に噴火した大蔵村の肘折火山軽石も確認されました。自然災害に見舞われた当地の古環境の復元などを考える上でも貴重な資料が得られました。

調査区遠景（北より）

遺構完掘状況（東より）

SX3 風倒木痕の遺物出土状況（北より）

貝殻沈線文系土器出土状況

中洗（なかあらい）２遺跡

－周溝をめぐらせた古墳時代の大型竪穴住居－

川　西　町

中洗２遺跡は、JR米坂線中郡駅の北約800ｍに位置する古代の集落跡で、一般国道287号米沢川西バイパスの建設工事に先立ち新規に発見された遺跡です。

今回の調査で、遺構として竪穴住居が５棟、掘立柱建物が３棟、溝跡が４本などが発見されました。調査区を東西に横切る細い溝だけが江戸時代で、残りは古墳時代後期のものと思われます。

竪穴住居は、圃場整備により激しく削平されており、床面や貼り床の一部のみ残存というものばかりでした。しかし、ST1竪穴住居は、１辺が８ｍほどある大型の竪穴住居で、周囲に周溝が巡らされています。カマドの痕跡もあり、出土する遺物から、６世紀ごろの古墳時代後期の時期であると考えられます。他の竪穴住居からも、同時代の遺物片が出土しており、ほぼ同時期に存在していたとみられます。

また、調査区外に広がる半円形のSD9溝は周溝と思われますが、内部に住居や埋葬施設などの遺構は確認できませんでした。周溝内からまとまって古墳時代後期の甕や壺などの土師器が出土し、竪穴住居と同時期に存在したとみられます。

掘立柱建物が３棟検出されました。１棟は竪穴住居と重複しており、一部の柱穴が竪穴住居の床を剝がして発見されたことから、その竪穴住居よりは古いとみられます。

南東から北西へ調査区を横断する幅６ｍ、深さ１ｍほどのSD11大型溝があります。壁面を垂直に掘り下げ、溝床面は平坦になっています。底からは同じく古墳時代後期の遺物を中心に出土しました。この溝は調査区外に伸びており、正確な規模や性格は不明です。

今回の発掘調査で、中洗２遺跡が古墳時代後期の集落跡であることが明らかになりました。周溝を伴う大型の竪穴住居や大型の溝など、通常の集落ではみられない遺構が検出されました。特に、古墳時代後期の周溝を伴う竪穴住居は、県内や近県では類例を確認出来ていません。

遺跡全景

SD11大型溝完掘状況

ST1大型竪穴住居と周溝完掘状況

山形城三の丸跡第24次 ―市街地に残る遺跡― 山　形　市

山形城三の丸跡は、最上義光が整備拡張した近世城郭山形城の一部にあたります。今回の調査は一昨年と昨年に続いて都市計画道路事業３・２・５号旅篭町八日町線に伴う調査になります。今年度の調査区は三の丸の出入口の一つである横町口の近辺でした。この周辺は幕府直轄領となった1764年から武家屋敷の取り壊しが行われており1767年に秋元氏が入封した段階では畑になっていたと言われている場所です。秋元氏は横町口にいたる通りに中級家臣の長屋を建造したといわれています。今回の調査区の一区画は長屋が建造された通りに比較的近い場所にあたります。

調査では江戸時代と奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されました。この結果は、過去２年行ったものとほぼ同様です。江戸時代の遺構は前半期のものが確認出来ました。その中でも形が不定形で範囲が５ｍ以上、深さ80㎝程の遺構が注目されます。その遺構からは「かわらけ」が多く出土しました。この時期の「かわらけ」の形状を考える上で良い資料となりそうです。個体のほとんどが口縁部に煤を付着した状態であったことから灯かりをともす燈明皿として使用されたものとみられます。また、江戸時代初期に焼かれた九州地方の焼き物も出土しています。なお、遺構の使用用途は今後の検討課題になります。江戸時代後半期のものは遺構・遺物ともに少なく、土坑が確認できる程度でした。これは幕府直轄領となって以降、近代に入るまで、あまり開発の手が入らなかったことを意味しています。

奈良・平安時代ではピットや溝跡、掘立柱建物を検出しました。竪穴建物は検出されていません。珍しい遺物として溝跡から取っ手がついた須恵器の鉢が出土しています。掘立柱建物は２間×１間以上で柱が外側に配置される側柱建物です。建物は調査区外に延びており、全体の大きさは不明です。柱穴は円形で建物の四隅の柱穴が少し大きく掘られています。また、この建物は昨年検出した竪穴建物と向きが揃っており、同時期の建物と考えることができます。

「かわらけ」が出土した近世の大型遺構

検出された掘立柱建物

大型遺構から出土した「かわらけ」と陶器

遺跡体感ツーリズム in 舞鶴山　10月15日(日)

戦国時代の山城の縄張りが遺る天童古城跡のある舞鶴山で、遺跡体感ツーリズムを開催しました。当日はあいにくの天気で、予定ルートを変更しての開催となりました。天童古城跡の発掘調査にも携わった大類誠氏より、調査で明らかとなった当時の主郭の姿や、遺っている曲輪や切岸について解説をいただきました。

雨の中参加して下さった皆さん
熱心に話をきいておられました

主郭部分には現在愛宕神社が建立されています

愛宕神社の礎石には、主郭御殿の
礎石を転用しているそうです

舞鶴山にはいたるところに
曲輪が幾重にも遺っています

発掘された朝日町の遺跡

9月27日（水）～10月22日（日）
エコミュージアムセンター創遊館

令和5年度市町村巡回展2ヶ所目は朝日町です。中央を最上川が流れる朝日町には、その地形のためか中世の楯跡が多く確認されています。これまで埋蔵文化財センターで3遺跡の発掘調査が行われ、その出土品をエコミュージアムセンター創遊館のギャラリーで公開しました。特に縄文時代中期（約4,500年前）の縄文土器が多数出土した八ツ目久保遺跡では、注口土器が注目を集めました。体部に渦巻文があり、注ぎ口を上向きにつくる形は縄文人の豊かな表現力を感じさせます。

考古学お仕事体験　11月18日（土）

毎年ご好評をいただいている考古学お仕事体験、今年は子供さんだけでなく、大人の方々にも多くご参加をいただきました。細かい作業に苦戦しながら体験し、遺跡の整理作業を知っていただけたようです。

拓本体験で土器の文様をきれいに写しとります

土器の接合体験ではなかなかくっつきません

石器製作の実演ではどうやって作っているのか皆さん興味津々です

パソコンでのトレースはゆっくり慎重に…

発掘された南陽市の遺跡

11月14日（火）～1月14日（日）
南陽市立結城豊太郎記念館

令和5年度市町村巡回展3ヶ所目は南陽市、元大蔵大臣結城豊太郎の資料を展示公開している記念館の2階展示室で遺物を公開しました。これまで発掘調査されたたくさんの遺跡から各時代を代表する5遺跡の出土品を展示しました。ギャラリートークの際には、敷地内の臨雲文庫で座学を行った後、展示品を目の前に解説を行いました。参加者は南陽市に多くの遺跡があることや、たくさんの土器などが出土しているを初めて知ったようで、今回展示した遺跡以外の遺物もぜひ公開してほしいとの声があがっていました。

令和５年度山形県発掘調査速報会　３月３日（日）

山形市の山形国際交流プラザ山形ビッグウィングにて速報会を行いました。令和５年度に発掘した、史跡山形城跡（山形市）・史跡舘山城跡（米沢市教育委員会）・元屋敷遺跡（大江町教育委員会）、そして埋文センター発掘調査の新庄城二の丸跡・鶴子中原遺跡・中洗２遺跡の計６遺跡について報告されました。天候の悪い中 83 名の方に足をお運びいただきありがとうございました。

令和５年度ふるさと考古学講座

令和５年度ふるさと考古学講座を山形県埋蔵文化財センターを会場に開催しました。3 回にわたる講座で、内部の職員はもちろん、外部の方にもお越しいただき、日頃職員が調査研究に励んでいる成果を解説いただきました。

第１回：２月 22 日（木）14：00 ～ 15：00
「縄文晩期の香炉型土器の型式変化」　小林圭一

第２回：３月１日（金）14：00 ～ 15：00
「3D 写真計測の利用について－発掘調査から
　　報告書作成に関して－」　　水戸部秀樹

第３回：３月８日（金）14：00 ～ 15：00
「初めての石器の見方と種類。作り方」　大場正善

編集後記

令和５年度で山形県埋蔵文化財センターは設立 30 周年になります。これまでの 30 年間で県内各地で発掘調査を行ってきました。それらの調査で出土した遺物を展示公開します！ぜひこの機会に上山市にある埋文センターへお越しください！ちなみに、埋文センターはＪリーグと同い年です。